

課題

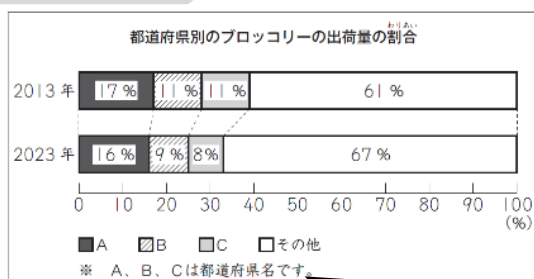
【小・算数】目的に応じて適切なグラフを選択することができない。

手立て

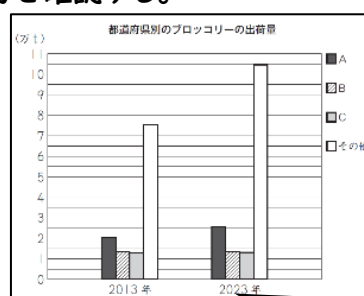
- ①棒グラフや帯グラフ等の特徴や使い方を確認する場面を設定する。
- ②円グラフや帯グラフなどの割合のグラフは、全体の数量によって実際の量が変わることを検討する場面を設ける。
- ③グラフを選択する場面を設定し、その選択理由を表現させることにより、グラフの適切さを考えさせる。

具体例

POINT① それぞれのグラフの特徴や使い方を確認する。



帯グラフは、項目の割合を比較することができる。



棒グラフは、データの中の数量の大きさの違いを一目で捉えることができる。

それぞれのグラフを比較し、どのような場面で用いられているかを話し合わせるなどして、特徴の違いを考えさせる。

POINT②

割合のグラフは、実際の量を表しているわけではないことを理解させる。

習いごとをしている人の割合
※黒塗り部分



B小学校の方が習い事をしている人が多い。

A小学校は全校児童600人

B小学校は全校児童50人

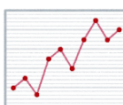
本当にそうかな？

全体の数量が異なる割合のグラフを比較し、数量の大小関係を検討する場面を設ける。

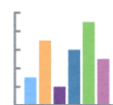
POINT③

グラフを見る際に、そのグラフが何を表しているのかを確認する。

生産量の変り方



野菜別のしゅうかく量



県別の生産量の割合



表題を読んで、グラフが何を表しているか確認するとよいですよ。

生産量が10年前より増えていることを伝えたいけど、どのグラフが使えるかなあ？

選択したグラフの理由や、主張に適さないグラフとその理由について話し合わせ、グラフの適切さを考えさせる。